

高知県知事 殿

〔設置者の名称〕 高知県公立大学法人

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 中澤 卓史 公印

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	高知工科大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学) 短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185 番地
学長又は校長の氏名	学長 磯部 雅彦
設置者の名称	高知県公立大学法人
設置者の主たる事務所の所在地	高知県高知市永国寺町 2 番 22 号
設置者の代表者の氏名	理事長 中澤 卓史
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/post_9.html

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。 この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、

減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務課 下司真実	0887-53-1111	general@ml.kochi-tech.ac.jp
第2号の1	教務課 服部賢範	0887-53-1113	academic@ml.kochi-tech.ac.jp
第2号の2	総務課 下司真実	0887-53-1111	general@ml.kochi-tech.ac.jp
第2号の3	教務課 服部賢範	0887-53-1113	academic@ml.kochi-tech.ac.jp
第2号の4	総務課 下司真実	0887-53-1111	general@ml.kochi-tech.ac.jp

○添付書類

- ※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	
設置者名	

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	円	円	円
申請2年度前の決算	円	円	円
申請3年度前の決算	円	円	円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	円	円	円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	人	人	%
前年度	人	人	%
前々年度	人	人	%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	高知工科大学
設置者名	高知県公立大学法人

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
システム工学群		夜・通信	4	4	28	36	13	
環境理工学群		夜・通信			8	16	13	
情報学群		夜・通信			10	18	13	
経済・マネジメント学群		夜・通信			14	18	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高知工科大学 HP https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/post_9.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	高知工科大学
設置者名	高知県公立大学法人

1. 理事（役員）名簿の公表方法

高知県公立大学法人 HP https://www.kppuc.ac.jp/about/officer.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高知商工会議所 会頭	平成31年4月 1日～令和3 年3月31日	法人組織運営体制 のチェック機能
非常勤	京都芸術大学 学長	平成31年4月 1日～令和3 年3月31日	法人組織運営体制 のチェック機能
非常勤	国立環境研究所 特任フェロー	平成31年4月 1日～令和3 年3月31日	法人組織運営体制 のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	高知工科大学
設置者名	高知県公立大学法人

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <p>全教員に対し、「授業科目の目的」「授業の概要」「達成目標」「授業計画」「成績評価の方法・基準」「教科書・参考文献の指示(ISBN(国際標準図書番号)利用)」「授業時間外学修(予習・復習等)」等が記載された「シラバス記載方法と見本」をもとに、シラバスを作成するよう指示するとともに、記載必須項目(授業の目的、授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画、成績評価の方法・基準、授業時間外学修(予習、復習等))を設けている。</p> <p>○授業計画書の作成・公表時期</p> <p>シラバスについては、科目開講の前年度末までに科目のシラバスを科目担当教員が作成し、開講年度の4月に公開している。</p> <p>シラバスについては、インターネット環境下であれば学外でも閲覧可能となっている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://portal.kochi-tech.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、高知工科大学学群及び学部履修規程に、特に優れた成績を示したものをAA、優れた成績を示したものをA、良好と認められる成績を示したものをB、合格と認められる成績を示したものをC、不合格をFと規定している。</p> <p>また、成績評価の適正化に関する取扱要領(平成27年1月14日教育研究審議会)を定め、「成績評価は各教員の裁量で行うことを前提とする」ことを明確にし、成績評価方法及び基準はシラバスに明記することを義務づけたうえで、セミナー科目、少人数科目等の一部の科目を除き、定められた基準に即していない評価(AA評価の合計が5%以上、AA評価とA評価の合計が25%以上)が行われた場合には、教育センター長に理由書を提出する対応を行っている。</p> <p>シラバスに沿った授業が提供されているかどうかについては、全学生を対象とした授業評価アンケートの回答結果を、教務課において確認し、必要に応じ担当教員に改善を求めている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○GPA等の客観的な指標と具体的な内容 成績評価は、AA：特に優れた成績を示したもの、A：優れた成績を示したもの、B：良好と認められる成績を示したもの、C：合格と認められる成績を示したものおよびF：不合格で表記し、評価平均点（GPA）を計算するときには、AA、A、B、CおよびFをそれぞれ4、3、2、1および0としている。</p> <p>○客観的な指標の適切な実施状況 科目別の成績評価分布及びGPAは、学生及び教職員に対し、クォータ終了ごとに年4回公開され、評価基準に基づいた成績付与について、客観的に確認できる仕組みとなっている。これが成績評価の客観性・厳格性を保つ一助となっている。</p>				
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧 https://www.kochi-tech.ac.jp/student/lecture/achievement.html			
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>				
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○卒業の認定に関する方針の具体的な内容 自発性・創造性、システムの視点、国際的思考とコミュニケーション能力及び各学群における専門能力を身に着け、学則に定める卒業要件を満たしたものに学位を授与している。 また、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）については、学士課程全体及び学群ごとに定め、学生便覧、ホームページ等で公開している。</p> <p>○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 卒業の認定については、学則第58条に定めたとおり、本学に4年以上在学し、以下に記載する人文・社会科学等科目、自然科学等科目、専門科目を修得し、かつ124単位以上を修得した者について、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度入学生以前 全学群共通 人文・社会科学等科目…17単位以上 自然科学等科目……………17単位以上 専門科目……………60単位以上 ・令和2年度入学生以降 				
	人文・社会科学系科目	自然科学等科目	専門科目	
			工学系共通	専門基礎 専門発展 専攻領域
システム工学群	10	12	14	60
環境理工学群	10	10	14	60
情報学群	12	16	8	60
経済・マネジメント	17	17	—	60
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧 https://www.kochi-tech.ac.jp/academics/undergraduate_policy/dp.html			

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	高知工科大学
設置者名	高知県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kppuc.ac.jp/information/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kppuc.ac.jp/information/finance.html
財産目録	
事業報告書	https://www.kppuc.ac.jp/information/performance.html
監事による監査報告(書)	https://www.kppuc.ac.jp/information/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和2年度高知県公立大学法人年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kppuc.ac.jp/information/plan-year.html
中長期計画(名称:高知県公立大学法人中期計画 対象年度:平成29年度~平成34年度)
公表方法: https://www.kppuc.ac.jp/information/plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/self_evaluation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/evaluation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 学士課程全体
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html) (概要) (大学全体の目的) 本学は、学術の中心として広く教育、研究を行い、深い専門知識と優れた人間性を持つ創造力豊かな人材を養成し、もって科学及び技術の振興と発展に寄与し、わが国ひいては世界に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html) (概要) 高知工科大学は、教育の基本理念として「来るべき社会に活躍できる人材の育成」を掲げ、広い教養を備え深い専門知識と優れた人間性を持つ想像力豊かな人材を養成します。その実現のために、以下のような能力を身に付け、学則に定める卒業要件を満たした者に対して学位を授与します。 1 自発性・創造性 自ら問題を発見・提起し、目標を定め、そこに到達する技法を見出し解決することができる自発性と創造性 2 システム的視点 分野を超えた知識や視野を持ち、物事をトータルなシステムとして捉え最適化することができる能力 3 国際的思考とコミュニケーション能力 グローバル化が進む社会の中で、自らの考えを発信するために必要とされる国際的な視野とコミュニケーション能力 4 専門能力 社会の潜在的な要求を察知し、それを実現するための方策を見出すことができるなど、社会で十分に活躍できる高度な専門能力や技能と視野
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html) (概要) 「人が育つ大学」として、学生が主体的・能動的に学び、成長していくことを重視した教育課程を編成します。 集中的受講による教育効果の向上と留学をはじめとする学外学修の促進を狙う「クォータ制」を基本としているほか、学生の自主性を尊重する「全科目選択制」、自学・自修を促す「専門科目の時間割上の集中配置」、「1年次からの専門科目履修」は、本学カリキュラム編成上の大きな特徴です。 また、「専攻・副専攻制」によって、専門分野に加え、関連する領域を理解する学際的な学びを促します。 ○カリキュラムの構成 教育課程は、全学群に共通の「1 共通科目」と各学群が提供する「2 専門科目」で構成されています。 1 共通科目 「人文・社会科学等科目」と「自然科学等科目」は、社会人として必要な知識や基礎力を培うとともに、豊かな人間性と創造性の涵養を目指す科目群で、それぞれ「基礎科目」と「教養科目」に分類しています。

(1) 人文・社会科学等科目

①基礎科目

「英語科目」とキャリア形成支援系の「人材育成科目」で構成する科目群です。英語は、読む、書く、聞く、話すことができる学習とともに、活きた英語に触れる機会を提供します。人材育成科目では、入学時の導入教育から、自己管理能力・生涯学習力を高めるキャリア教育科目を体系的に配置します。

②教養科目

法律、歴史、文化・芸術分野のほか、英語以外の外国語科目等を提供します。

(2) 自然科学等科目

①基礎科目

「数学科目」と「情報処理科目」を提供します。数学は、習熟度に応じた段階的な学習プログラムにより、専門科目の理解に必要な数量的スキルを身に付けます。情報処理科目は、情報通信技術の基礎を理解するとともに、当該技術の活用や活用する際のモラルなどの情報リテラシーを身に付けます。

②教養科目

専門科目を学ぶうえで必要となる物理学、化学、生物学等の科目を配置します。

2 専門科目

「専門基礎科目」、「専門発展科目」、「専攻領域科目」に大別し、各学群・専攻において学位授与と専攻修了に必要な取得単位数を設定するとともに履修モデルを提示することによって体系的な学修を支援します。また、工学系の3つの学群については、「工学系共通科目」を配置します。

(1) 工学系共通科目

工学系の3つの学群については、技術者に求められる素養を育む科目を配置します。

(2) 専門基礎科目

それぞれの分野の根幹となる基礎的な科目を配置します。

(3) 専門発展科目

各自の興味や関心に応じたより深い探求心に応えられる応用的な科目を配置します。

(4) 専攻領域科目

より高度で先端的な科目や学士課程の集大成となる卒業論文に向けた科目を配置します。

○教育の方法

- ・講義、実験、演習、フィールドワーク等を組み合わせた授業を提供します。
- ・英語科目、数学科目については、習熟度別の少人数クラスで授業を実施します。
- ・学生による授業評価を実施し、科目とカリキュラムの改善を図ります。

○学修成果の評価

- ・成績は、試験のほか、レポート、発表等を総合的に勘案して評価します。
- ・科目毎の具体的な評価方法については、シラバスで公開します。
- ・GPAに基づく成績評価を実施します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html>)

(概要)

高知工科大学は「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」ことを目標として掲げています。この目標に賛同し、来るべき社会に活躍できる人材になるという強い意志と情熱を持ち、勉学意欲のある人を求めます。

高知工科大学には、システム工学群、環境理工学群、情報学群、経済・マネジメント学群の4学群があります。各学群の教育の理念・目標を理解するとともに、それぞれの分野への高い関心と志望動機・目的意識を持ち、本学で学ぶための基礎学力を有していると認められる人の入学を希望しています。

学部等名 システム工学群

教育研究上の目的

(公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)
(概要) システム工学群は、機械工学、電気電子工学及び建築土木工学の専門分野を中心とし、さらに各専門分野の連携や融合を目指した研究に取り組み、これを教育面にも反映させることで広い視野を持って社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)
(概要) システム工学群の設定した科目の学修を通じて、広い視野を持って社会に貢献できる人材を養成することを目的とし、以下の知識および能力を身に付けた者に対し、学士(工学)の学位を授与します。 1 システム構築の基盤となる機械、電子、建築土木の工学分野に共通する基礎知識 2 機械、電子、建築土木いずれかの分野における高度な専門知識 3 日々進歩する技術に柔軟に対応できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)
(概要) 大学全体の共通科目に加え、工学の基幹をなす機械工学、電気電子工学、建築土木工学に関する知識を横断的に学修できる専門科目を提供します。 ○カリキュラムの構成 (1) 工学系共通科目 環境理工学群、情報学群と共通した科目群で工学全般に関わる概論系の科目を中心に構成しています。 (2) 専門基礎科目 技術者に広く求められる物理や数学科目のほか、各専攻に共通的な基礎科目、専攻での学修の基礎となる科目を配置しています。 (3) 専門発展科目 専攻分野の学びにおいて根幹をなす科目群を配置しています。 (4) 専攻領域科目 専攻領域をより深く学ぶための科目群と卒業研究によって構成されています。 ○特色 専攻に属さない1年次に分野共通の基礎科目を配置し、機械系、電子系、建築土木系の基礎力を広く身に付けたうえで、各専攻の専門分野を学んでいきます。 ○専攻 「知能機械工学」、「航空宇宙工学」、「エネルギー工学」、「電子・光工学」、「建築・都市デザイン」の5つの専攻に、それぞれ履修モデルと修了要件を設定しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)
(概要) 高知工科大学(学士課程全体)のアドミッション・ポリシーのもとに、システム工学群では、ものづくり一般に広く興味を持ち、それらを応用し、新しいシステム構築を切り開く意欲に溢れ、次のような資質を持つ人を求めます。 ①論理的思考および柔軟な発想力 ②基礎学力(数学・理科) ③協調性およびコミュニケーション能力 ④国際コミュニケーション能力(英語)を高める意欲 さらに、大学院へ進学することで、ものづくり分野や新しいシステム構築をけん引するようなハイレベルなエンジニアを目指すことを推奨します。 本学群の入学試験について、上記の4つの資質を持ちあわせた人材を選抜するために、以

下の入試を実施します。

4つの資質を持ちあわせながら、特に①と②に秀でた人を選抜するために「一般入試」を実施します。「一般入試」では、主に大学入試センター試験と理科・数学の個別学力試験の結果をもとに評価し、選抜します。4つの資質が総合的に優れた人を選抜するために「推薦入試」「AO入試」を実施します。推薦入試では、面接試験にて③、④を、口頭試問にて①、②を評価します。面接試験と口頭試問の結果に、提出書類の評価を加え、総合的に選抜します。AO入試では、面接試験にて③、④を、学群適性検査にて①、②を評価します。適性検査と面接試験の結果に、提出書類の評価を加え、総合的に人物を評価し、選抜を行います。

さらに、多様な人材を選抜するために「推薦特待生入試」、「社会人特別選抜入試」、「編入学試験」を実施します。

学部等名 環境理工学群
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要)</p> <p>環境理工学群は、環境科学、生命科学、ナノ科学を中心として、融合領域を含む教育、研究を行い、科学技術、自然環境の有機的なつながりを理解できる広い視野と倫理を持って活躍する人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要)</p> <p>環境理工学群の設定した科目の学修を通じて、科学技術、自然環境の有機的なつながりを理解できる広い視野と倫理を持って活躍する人材を養成することを目的とし、以下の知識および能力を身に付けた者に対し、学士（理工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な理工学の知識を有機的に連結して活用できる能力 2 環境数理、化学、生命科学、マテリアル工学のいずれかの分野における高度な専門知識 3 製品や生産プロセスの社会・自然環境に対する影響を予測し評価できる価値判断力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要)</p> <p>大学全体の共通科目に加え、数理物理学、化学、生命科学、材料科学の4分野に関する幅広い知識を身に付けることを目的とした、専門科目を提供します。</p> <p>○カリキュラムの構成</p> <p>(1) 工学系共通科目</p> <p>システム工学群、情報学群と共通した科目群で工学全般に関わる概論系の科目を中心に構成しています。(2) 専門基礎科目</p> <p>物理学、化学、生物学等自然科学的素養を育む基礎科学系の科目を配置しています。</p> <p>(3) 専門発展科目</p> <p>専門分野を学ぶうえで重要となる基幹的な科目を配置しています。</p> <p>(4) 専攻領域科目</p> <p>先端的な学際領域の科目と卒業研究によって構成されています。</p> <p>○特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学全般を基礎から応用まで学ぶことができるカリキュラムを提供しています。 ・環境リテラシーを高める科目として、環境プログラム科目群を設定しています。 ・直接観察やコンピュータを用いた多くの実験科目を提供しています。 <p>○専攻</p> <p>「環境数理」、「化学」、「生命科学」、「マテリアル工学」の4つの専攻に、それぞれ履修モデルと修了要件を設定しています。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要) 高知工科大学（学士課程全体）のアドミッション・ポリシーのもとに、環境理工学群では、自然科学や環境について興味があり、探究心に溢れ、次のような資質を持つ人を求めます。</p> <p>①自然科学全般を学ぶための十分な基礎学力 ②学んだことを社会で活かすためのコミュニケーション力と語学力 ③持続可能な社会の構築に尽力したいという意欲 ④身に付けた広い分野の知識を融合させて社会に貢献したいという情熱</p> <p>さらに、大学院へ進学することで、環境に配慮した製品開発・商品開発や持続可能な社会の構築をけん引するような、先端的な科学技術に精通した人材を目指すことを推奨します。</p> <p>本学群の入学試験について、上記の4つの求める資質を評価・選抜するために、以下の入試を実施します。</p> <p>4つの資質を持ちあわせながら、特に①と②に秀でた人を選抜するために「一般入試」を実施します。「一般入試」では、主に、大学入試センター試験と理科・数学の個別学力試験の結果をもとに評価し、選抜します。4つの資質を総合的に評価するために「推薦入試」を実施します。推薦入試では、口頭試問にて①、②を、面接試験にて③、④を評価します。面接試験と口頭試問の結果に、提出書類の評価を加え、総合的に人物を評価し、選抜を行います。4つの資質に秀でた人物を評価・選抜するために「推薦入試（センターあり）」を実施します。推薦入試（センターあり）では、大学入試センター試験の特定の科目を指定することで①の評価を行います。提出書類にて②～④を評価します。</p> <p>さらに、多様な人材を求めるために「推薦特待生入試」、「社会人特別選抜入試」、「編入学試験」を実施し、優れた人材を見出します。</p>
<p>学部等名 情報学群</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要) 情報学群は、情報通信技術の基礎から応用に至るまでの分野に加えて、メディアや人間などに関わる学際領域までを教育、研究の対象とし、広く次世代の情報技術を担える人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p> <p>(概要) 情報学群の設定した科目の学修を通じて、広く次世代の情報技術を担える人材を養成することを目的とし、以下の知識および能力を身に付けた者に対し、学士（情報工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学の基本的な知識および実践的な情報処理技術 2 情報と人間・情報とメディア・情報通信・コンピュータサイエンスのいずれかの分野に関する高度な専門知識および技術 3 学んだ知識を活用し、情報社会の課題を自ら発見し解決する能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>大学全体の共通科目を配置するとともに、専門科目として、情報学に関する基礎から応用に加え、メディアや人間に関する領域までの知識を育む体系的な教育プログラムを提供します。</p> <p>○カリキュラムの構成</p> <p>(1) 工学系共通科目 システム工学群、環境理工学群と共通した科目群で工学全般に関わる概論系の科目を中心に構成しています。</p> <p>(2) 専門基礎科目 専門分野の理解に必要となる基礎力を育む科目群を配置しています。</p> <p>(3) 専門発展科目 4つの専門分野についての中心的な科目を配置しています。</p> <p>(4) 専攻領域科目 実験・プロジェクト研究により専門分野の深い理解と実践力を培います。</p> <p>○特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報学の各分野を幅広くカバーした科目群を用意しています。 ・知識を応用する力を養うため、多彩な実験や演習を組み入れています。 ・専門分野を深く知るために履修の順番をわかりやすく示したプレレキジット表を作成し、誰でも段階を追って学修を進められるようにしています。 <p>○専攻</p> <p>「情報と人間」、「情報とメディア」、「情報通信」、「コンピュータサイエンス」の4つの専攻に、それぞれ履修モデルと修了要件を設定しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>高知工科大学（学士課程全体）のアドミッション・ポリシーのもとに、情報学群では、情報学に対する興味と明確で適切な目的意識を持ち、次のような資質を持つ人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①広い興味を持ち、主体的に真理を求める積極性と探究心 ②問題を正しく理解し、論理的に考察して、自分の考えを的確に伝えられる能力 ③ねばり強く打ち込み問題を解決する力 ④高等学校で学習する幅広い分野の基礎学力 ⑤数学や理科の論理的な理解 ⑥協調性が高く、専門領域でリーダーシップをとり活躍できる能力 <p>さらに、大学院へ進学することで、情報と人間、情報とメディア、情報通信、コンピュータサイエンスの各分野をけん引するような高度な技術者を目指すことを推奨します。本学群の入学試験では一般入試に加え、多様な人材を求めるために推薦入試、AO入試を実施します。</p> <p>「一般入試」では大学入試センター試験によって③、④を評価し、理科・数学の個別学力試験によって②、③、⑤を評価して選抜します。「推薦入試」では面接試験によって①、②、④、⑥を、提出書類によって①、③、④、⑥を評価して選抜します。「AO入試」では面接試験によって①、②、⑥を、学群適性検査によって②、③、⑤を、提出書類によって①、③、④、⑥を評価して選抜します。</p> <p>さらに、「推薦特待生入試」、「社会人特別選抜入試」、「編入学試験」を実施し、優れた人材を見出します。</p>
<p>学部等名 経済・マネジメント学群</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>経済・マネジメント学群は、多様な価値観により社会を俯瞰的に捉え、経済学、経営学などの基礎知識を有することで社会経済における諸課題を分析し理解し、或いは統合して活用することで社会システムを設計しマネジメント出来る知恵を持ち、高度なマネジメント能力を実践出来る人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>経済・マネジメント学群の設定した科目の学修を通じて、経済学分野、経営学分野および関連分野の知識とそれらを活用する知恵を兼ね備え、企業や行政、その他様々な組織のマネジメントにおいて活躍できる人材や自ら起業する気概と能力を有する人材を養成することを目的とし、以下のとおり修得する知識や能力に応じて、学士（経済学）または学士（マネジメント学）の学位を授与します。</p> <p>○学士（経済学）</p> <p>社会経済の諸課題を認識し、経済政策や地域政策など経済学が担う社会経済のシステム設計を行う人材に求められる、次の知識および能力を身に付けた者に対し、学士（経済学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済学分野、経営学分野および関連分野の基礎的な専門知識 2 経済学の理論を理解し、実践的に応用できる能力 <p>○学士（マネジメント学）</p> <p>企業経営、起業経営、行政経営などの各分野において、市場の分析から経営企画・構築・運営が総合的にでき、マネジメントのプロフェッショナルに求められる、次の知識および能力を身に付けた者に対し、学士（マネジメント学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済学分野、経営学分野および関連分野の基礎的な専門知識 2 経営に必要な能力を持ち、実践的な経営企画ができる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>大学全体の共通科目に加え、経済学、経営学を中心に据えつつ、社会における諸課題を解決するための社会生態分野や経済学の理解に必要な数理分野および工学の基礎を学際的に学ぶことができる専門科目を提供します。</p> <p>○カリキュラムの構成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門基礎科目 経済学、経営学に関する概論系の科目と数学、セミナーによって構成されている科目群を配置しています。 (2) 専門発展科目 専門領域の理解に必要な基礎的理論と実践を学ぶ科目群を配置しています。 (3) 専攻領域科目 講義で専門知識を深めるとともに、セミナーやプロジェクト研究によって実践力を養います。 <p>○特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー形式による少人数教育を実施しています。 ・実践的な課題設定による討論形式の授業を取り入れています。 ・国際社会で通用する力を身に付けるため、英語による専門科目を提供しています。 <p>○専攻</p> <p>教育の基礎となる経済学、経営学の理解に立脚した「人間行動」、「経済政策」、「数理経済マネジメント」、「地域・行政システム」、「企業・起業マネジメント」、「国際経済マネジメント」、「スポーツマネジメント」の7つの専攻に、それぞれ履修モデルと修了要件を設定します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p>

(公表方法：<https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html>)

(概要)

高知工科大学（学士課程全体）のアドミッション・ポリシーのもとに、経済・マネジメント学群では、社会や組織の課題とその解決に関心があり、次のような資質を持つ人を求めます。

- ①物事に主体的に取り組む積極性を持つ
- ②知的な能力を伸ばすことへの向上心がある
- ③経済学や経営学を中心とした社会科学全般を学ぶために必要な基礎学力を身に付けている
- ④課題が提示されたとき自身の知識と経験をもとに論理的に解決策を考えられる
- ⑤自分の考えを他者に対して明確に伝えることができる
- ⑥学問あるいはスポーツにおける特定の分野に秀でた能力を持つ

上記の資質を持つ人を評価し選抜するために、本学群では以下の入学試験を実施します。特に③、⑥に重点を置いて評価するために、「一般入試」では、大学入試センター試験と個別学力試験により選抜します。求める資質を総合的に評価するために、「AO入試」、「推薦入試」、「特別推薦入試」を実施します。「AO入試」では、提出書類、面接試験および能力検査または実技試験により、「推薦入試」では、提出書類および面接試験（思考力を問う質問を含む）により、「特別推薦入試」では、提出書類、面接試験（思考力を問う質問を含む）およびスポーツ活動実績により、それぞれ選抜します。これらの入試では、提出書類により②、③を、面接試験により①、②、⑤をそれぞれ評価します。「AO入試」の能力検査では③、⑥を、実技試験では⑥を、それぞれ評価します。「推薦入試」および「特別推薦入試」においては、面接試験中の思考力を問う質問により③、④、⑤も評価します。さらに、「特別推薦入試」では、スポーツ活動実績により⑥も評価します。

さらに、多様な背景や経験を持つ人を求め、「推薦特待生入試」および「社会人特別選抜入試」を実施します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
システム工学群	—	20人	14人	4人	10人	2人	50人
環境理工学群	—	13人	6人	2人	8人	0人	29人
情報学群	—	10人	6人	2人	7人	0人	25人
経済・マネジメント学群	—	8人	7人	4人	9人	0人	28人
教養部（一般教育）	—	6人	6人	3人	1人	0人	16人
附置研究所	—	8人	0人	1人	5人	5人	19人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			87人				87人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kochi-tech.ac.jp/about/organization/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員評価システムにより、教育、研究、社会貢献、大学運営に対する貢献のそれぞれの分野を定量的に評価し、これらを給与増減や昇任に適用することによって、教員の資質向上を図っている。また、授業評価アンケートの結果を、成績分布とともに科目単位ですべての学生及び教職員に公開し、授業改善を促進するほか、教員表彰、クォータ制を活用した教員海外研修等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
システム工学群	170人	179人	1.05%	688人	761人	1.11%	4人	5人
環境理工学群	90人	101人	1.12%	366人	408人	1.11%	3人	0人
情報学群	100人	102人	1.02%	406人	435人	1.07%	3人	1人
経済・マネジメント学群	160人	165人	1.03%	640人	698人	1.09%	0人	0人
マネジメント学部	0人	0人	—%	0人	6人	—%	0人	0人
合計	520人	547人	1.05%	2100人	2302人	1.10%	10人	6人
(備考) マネジメント学部は、平成 27 年度に学生募集停止								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
システム工学群	171人 (100%)	79人 (46.2%)	87人 (50.9%)	5人 (2.9%)
環境理工学群	84人 (100%)	39人 (46.4%)	41人 (48.8%)	4人 (4.8%)
情報学群	102人 (100%)	23人 (22.5%)	75人 (73.5%)	4人 (3.9%)
経済・マネジメント学群	160人 (100%)	2人 (1.2%)	150人 (93.8%)	8人 (5.0%)
マネジメント学部	1人 (100%)	0人 (-%)	0人 (-%)	1人 (100.0%)
工学部	1人 (100%)	0人 (-%)	0人 (-%)	1人 (100.0%)
合計	519人 (100%)	143人 (27.6%)	353人 (68.0%)	23人 (4.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 以下のURL参照 https://www.kochi-tech.ac.jp/careersupport/performance/list1.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
システム工学群	180人 (100%)	157人 (87.2%)	16人 (8.9%)	7人 (3.9%)	0人 (0%)
環境理工学群	96人 (100%)	81人 (84.4%)	10人 (10.4%)	5人 (5.2%)	0人 (0%)
情報学群	107人 (100%)	95人 (88.8%)	6人 (5.6%)	6人 (5.6%)	0人 (0%)
経済・マネジメント学群	170人 (100%)	157人 (92.4%)	9人 (5.3%)	4人 (2.3%)	0人 (0%)
合計	553人 (100%)	490人 (88.6%)	41人 (7.4%)	22人 (4.0%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業計画書(シラバス)の作成過程 全教員に対し、「授業科目の目的」「授業の概要」「達成目標」「授業計画」「成績評価の方法・基準」「教科書・参考文献の指示(ISBN(国際標準図書番号)利用)」「授業時間外学修(予習・復習等)」等が記載された「シラバス記載方法と見本」をもとに、シラバスを作成するよう指示するとともに、記載必須項目(授業の目的、授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画、成績評価の方法・基準、授業時間外学修(予習・復習等))を設けている。</p> <p>○授業計画書の作成・公表時期 シラバスについては、科目開講の前年度末までに科目のシラバスを科目担当教員が作成し、開講年度の4月に公開している。 シラバスについては、インターネット環境下であれば学外でも閲覧可能となっている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価は、成績評価の適正化に関する取扱要領（平成 27 年 1 月 14 日教育研究審議会）を定め、「成績評価は各教員の裁量で行うことを前提とする」ことを明確にし、また成績評価方法及び基準はシラバスに明記することを義務づけたうえで、セミナー科目、少人数科目等の一部の科目を除き、定められた基準に即していない評価（AA 評価の合計が 5%以上、AA 評価と A 評価の合計が 25%以上）が行われた場合には、教育センター長に理由書を提出する対応を行っている。				
○卒業の認定に関する方針の具体的な内容				
自発性・創造性、システムの視点、国際的思考とコミュニケーション能力及び各学群における専門的能力を身に着け、学則に定める卒業要件を満たしたものに学位を授与している。また、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）については、学士課程全体及び学群ごとに定め、学生便覧、ホームページ等で公開している。				
○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況				
卒業の認定については、学則第 58 条に定めたとおり、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
システム工学群		124 単位	有	48 単位
環境理工学群		124 単位	有	48 単位
情報学群		124 単位	有	48 単位
経済・マネジメント学群		124 単位	有	48 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学群 共通 (県外)	—	535,800 円	300,000 円	4,660 円	「その他」は 4 年間の「学生教育研究 災害 傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料」。 編入生のみ 2,430 円 (2 年間)。
全学群 共通 (県内)	—	535,800 円	150,000 円	4,660 円	「その他」は 4 年間の「学生教育研究 災害 傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料」。 編入生のみ 2,430 円 (2 年間)。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀者を対象とした特待生制度の実施 ・特待生等を対象とした、経済的支援及びより能力を伸ばすための特別なプログラムを組み合わせた「KUT アドバンスプログラム」の実施 ・グローバル社会を生き抜くために必須となる英語力、コミュニケーション能力、異文化理解力の修得を目指す学習プログラムである「ジョン万次郎プログラム」の実施

- ・学生が目指すグローバル人材像を一般教養型、キャリアアップ型、グローバル・リーダー型の3つのタイプに分け、各タイプに応じたグローバル人材育成プログラムを提供
- ・成績優秀者等に対する表彰制度の実施

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

- ・キャリア科目、インターンシップ科目の提供によるキャリア教育の実施
- ・企業採用担当者と学生、教職員の意見交換の場を提供する「大学説明会・情報交換会」の実施
- ・学内合同業界研究セミナーの実施
- ・県外の合同企業説明会へ参加する学生に向けた就職支援バスツアーの実施
- ・学内個別会社説明会
- ・就職担当教職員・常勤就職アドバイザーによる個別指導（履歴書添削、面接指導等）の実施

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・各キャンパスにおける健康相談等の実施
- ・カウンセラーによる個別心理相談の実施
- ・ハラスメントに関する相談窓口・相談員の設置及び周知、ハラスメント防止・対策委員会の常設等による体制整備
- ・学生同士の助け合いを目的としたピア（仲間）・サポート（支援）活動

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kochi-tech.ac.jp/disclosure/univ/edu-row.html>

- ・これ以降の別紙は、今年度に限り提出不要。
- ・参考に添付。

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	高知工科大学
設置者名	高知県公立大学法人

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。